

軍令部

軍務局

機務局

供養

ハイシーフリートノ降服ヲ見タル迄

第一課  
第二課

池田  
三郎

8.12.27

8.8.9

0055

英駐秘第 九 號

大正 八年 三月 十日

飯田英國在英帝國大使

小林海軍省副官坂

中機關少佐提出

見及近及毒有斯之就下之關

別冊英國駐在 海軍機關少佐  
由記録為參考及送附候

内々水交社記。掲載せんと  
可也。 (Seal)

先技

川添付

附武官

トレノ降服ヲ

ん件

山中政之提

終

軍務局接受

0057 0056

IMPERIAL JAPANESE NAVY.

英駐秘第 九 號

大正 八年 三月 十日

飯田英國在英海軍大使

少林海軍省副官殿

中機謝少佐提出「ハインリー」

見及近及毒瓦斯就予之関

別冊英國駐在英海軍城閣少佐  
出記録為參考及送附候

別冊二冊添付

毒瓦斯ハ先送附

附武官

トレノ降服ヲ

ハ件

山中政之提

也

終

軍務局接受

0057 0056

ハイジントフリートノ降服ヲ見ル也

緒言

本編。余が大正七年六月十七日ヨリ五月半。英艦ノインドニタビ止及ビ  
マインガシニ東艦ノ間毎日記載セシ日誌及ビ折ニ触レテ走り書セル  
見聞感想録ヨリ抽出セル断片ヲ集令<sup>セキ</sup>ニテ素ヨリ<sup>正</sup>格ニ  
~~意味ノ報告ヲ~~意圖セズ<sup>唯</sup>之ニ由テ戦争終期ニ於ケル英海  
軍ノ面影ヲ僅カヤリトモ<sup>此</sup>吾人ノ間ニ紹介シ得バ余ノ本懐  
スレ<sup>ハ</sup>覆ナリ。

大正八年二月廿日

海軍機関少佐 山中政之

3  
水交記事乙

9.

水交記事

ちんちんエール

水交

0058

ハインリッヒの降帳ニ準て

ハインリッヒの東艦迄

一ヶ月程前ニ英國海軍者ニ申シテ吉岡機関中佐トノ交代ニ件モ前週  
 中ニ美諾ノ返答が未タリテ衣裳道員ノ整備ニ其ノ余ノ日ヲ費スル念大正五年  
 十六日曜日ノ夜倫敦ニ今カウ所謂「ロビン」ニ入ラウトムノ間際ニ「キギス」  
 ヲスレノ停車場ヲ後ニテ「模國東岸」英海軍ノ根據地「フリス」オブ「ス」  
 ニ向ラテ「モギン」直通ノ列車「キギス」カラ一日四回御津岸「ロビン」  
 クラニ停車場ヨリ先「ロビン」トシテ停車場カウ各一回都合六回ノ往復  
 「ロビン」ニ「ロビン」トシテ海軍兵士専用ノ列車モアリ 英國鉄道ノ列車  
 回數ニ戦前ニ比シテ大分ヤリ詰メテ居ル間ニ軍事上極メテ重要ナル  
 線ヲ軍人ノ往復モ頻繁トシ故他ノ線ニ比シテ列車ノ數ガ多ク「ロビン」唯  
 台車ノ數ニ極メテ僅カデシモ大抵英海軍者ガ買合メテ居ルカ「普通」  
 般ノ人々ノ利用スルコト困難ナル 英國ノ「ロビン」サービスニ戦前中大分  
 不便ナリ、様ニ伝ハシテ居ルガ東海道線ノ混雑ニ馴レテ居ル者ハ「ロビン」程モ  
 感シヤシ 何事モ習慣性ガ解釋ガ得テ様ニ誤テ英國ガ現在實施シテ  
 「生活」ニ馴レタ五々日本人ニ「ロビン」マカク御大名式ナル 鉄道モ「ロビン」  
 市内ノ交通機軸モ「ロビン」事案ヲ「ロビン」今迄程ニ貴澤ガ出来ナク「ロビン」  
 ヲ「ロビン」  
 車「ロビン」比、列車大ニ「ロビン」設備ガ「ロビン」後ハ海軍者ノ「ロビン」  
 「ロビン」置イター「ロビン」番「ロビン」在「ロビン」得ク、

水交記事乙

0059

サヤナが一人一室を占領す構造が便所を除く其他一切の設備が備わ居に  
カクツ海台を買つてヨソヨソの寢室を買つておつた方適當なところ。 普通  
一般の乗客が見渡すところのバーンジャックの上トカキ止服が大半である。六月半  
ト虽も緯度が高い英國の何よりアモ寒い。寢る時毛布を二枚掛ける  
ムヒトウ通して一度善い位である

翌朝午前九時頃目を醒すと汽車は既ニトウキドマスヲ過ギテ後國  
東岸の原野ヲ大速カニ北ニ疾走シテ居ル。顔ヲ洗ヒ衣服ヲ整ヘ給任ニ  
命ジテ茶ヲ啜ツテ居ル間ニハヤク時を近クナリ五年前ニ見覺エタルノキンガスヤ  
山谷モ段々近クナリテ遂ニ道ヲ潜ツテ「エダングラ」の「エーグレイ」停車場ニ  
着イタル。正八時即チ途中四ヶ所ノ停車場時向ヲ除クハ倫敦「エダングレイ」  
約四百哩ヲ殆ド九時向足ラズテ驟チ走ツテ一時間ノ平均速カニ大約  
四十哩ヤリ毎里ニ直スト三八五哩である

「ハースブリク」ニステーションホテビデ入浴身繕ヒテ朝食ヲ啜ル命ジテ置イタ  
タキレ「ハース」正面入口ニ待ツテ居ル此処カラ「コチ」橋畔迄約八哩半  
平和時代ニ来たトリアン道ヲ一氣ニ走ツテ軍艦ノ小蒸氣が着ク「ボリス」  
ニ着イタルが忘レモナイ。六月十七日午前十一時である。之ヲ先ニ乗艦スルキ  
「ダイカ」ノ艦長「カタツ」大佐ニ私信テ今日ノ豫定到着時向ヲ通告シ  
且ツ「小蒸氣ヲ依頼シテ置イタ」知が波止場ニソレソレイモ「更ニ見ダラズ  
又沖ノ方ニ聞キ及ニダ」ダイカ止及ビ「一巡洋戦艦隊ノ影ヲ見エ又傍  
出港シタデアラフ」思フテ喜喜シテ居ル「ロウ」ダイヤ「オノサ」デモ「ウ」見タ  
知七十歳ニ近キ一人ノ海軍少佐が白鬚ヲ撫シテ、倒ニヤツテ来た一軍。次第  
ヲ聞キトリ「爲」ニ大ニ頭ヲ捻ツテ尋ヒタ「コノ人」此知「コトアマス」

水交記 乙

0061

昨日の夕方、昨日の艦ト出港シタカラ免モ南對岸ニ渡リテ鎮守府  
 司令長官ノ命ヲ受ケテ善カク親切ニ世話ヲシテ見セタソノ下ニ  
 樽トシテフエリーボトニ荷物ヲ移シカケト軍艦ノ小蒸氣トモ思ヒ  
 現ニ十六七歳位ノ「ヤード」一候補生ガ鐵ノ倒ニ墜ケ寄リテ「ア  
 日本ノ海軍士官ヲ「タカガ」ニ志カレ「カデ」アリヤモ「カト」ヨリ  
 通リ渡リ「舟」ト思フ「左」ノ通リト答ヘト彼「第一巡年戦艦」  
 「昨夕出港シマシタカラア」ト「タイ」ト「ノ」帰港也「カ  
 ン」ト「タ」ト「ブ」ト「ニ」海泊リ  
 ナル様旗信ニ由テ御迎ニ奉マシタトイハレ町中ニ事ノ次第ヲ  
 右ノ小蒸氣「カ」ノ「ド」ニ「タ」ト「ブ」ト「テ」  
 ト思フニ威儀ヲ正シ小蒸氣ニ乗リ移ルト艦「ス」ガ「纜」ヲ「高」シ「橋」ノ「西」方  
 ニ横シカニ巡洋戦艦隊ノ三番艦「カ」ノ「ド」ニ「タ」ト「ブ」ト「テ」  
 日天氣「カ」ノ「ド」ヨリ「テ」居タガソレモ太陽ノ薄ク顯シ「風」ノ「波」  
 如何モ平和ナ氣分ガシタ「カ」ノ「ド」ト「ブ」ト「マ」シ「テ」取「下」ニ「テ」前「橋」ヲ「無」暗「ニ」シ「テ」  
 くサセテ艦影ヲ監視スニ及ンデ成程突戦ノ要求「見」得「モ」多「ク」モ「ナ」ク  
 「カ」ノ「ド」ニ「タ」ト「ブ」ト「テ」第一「カ」ノ「ド」ト「ブ」ト「テ」感「ジ」ガ「起」ツ「タ」  
 「カ」ノ「ド」ト「ブ」ト「テ」礼ヲ受ケツ、右舷前部ノ舷梯ヲ上ト副長ト當直時  
 校ニ驚愕ニ鐵ヲ仰ヘ士官室附属ノ喫煙室ニ案内ニテ異シク英國  
 ノ軍艦ニ士官室ノ外ニ上流ノ士官室喫煙室トモカアリテ新聞雜誌  
 喫煙食前ノ飲酒等ニ茲ニ於テスル習慣アリ即チ宿屋ノ「カ」ノ「ド」  
 喫煙飲酒ニ  
 行ニテ居ル

12  
 水交記事  
 乙

13. 水交記事  
乙

探照燈台

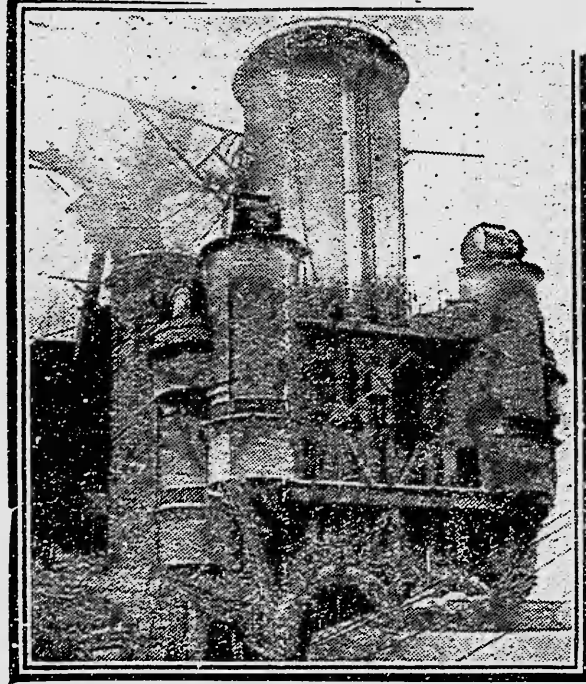


NAVAL "COFFEE BOXES."—On H.M. battleship Marlborough. Showing shields contrived to protect searchlights. They are known in the Navy as "coffee boxes."

0063 0062



13. 水交記事



NAVAL "COFFEE BOXES."—On H.M. battleship Marlborough. Showing shields contrived to protect searchlights. They are known in the Navy as "coffee boxes."

0063 0062

別

ノインロミタフ止リ一九〇八年一級成デアカウモ一四ノト箱スモキアール

位原リテモト高ヲ括フテ居ラ知カ待テトモク「タイガ」一隊入ッテ来テ

段々様子ヲ聞クト I.B.C.S (第一巡洋戦艦隊) 畧語デアラスモヒーエスト畧称ス

第二戦艦隊 I.B.S. 即チ「コンドビーエ」ト云フ「機雷沈置掩護」了リテ「ス

カッパ」ニ行ッテト事故ソレデハ「分軒果」覚束ナイ「コー」思ッテ愈ム所ヲ括エ

ルコトニシテ 其後 I.B.C.S. が機雷沈置掩護ニ出陣ケヨサ「スカ」ハ「入港ス」

既ニ其処ヲ去リ又モヤ「タイガ」ヲ逸シ北海ニ放シ大艦隊大演習ヲ行フ

而シテ「ロサイ」ハ「入港ス」ト今度「カタカ」ハ「入港中」デア「ア」コンモ「ド」ヨシガ「西」カウ

今暫ラウ「ノイン」ドミタ「ブル」ニ居ッテ「ト」ニ「テ」テ「ト」ノ「許」リ「ラ」意「外」

艦ヲ「暮」シテ「シ」マウタ 此ノ「御」蔭「デ」豫「定」以「外」ノ「艦」模「様」モ「見」ル「コ」ト「ガ」

却テ「利益」ヲ「得」ル「コ」ト「ガ」多ク 殊ニ「機」南「長」航「海」長「ガ」各「方」面「ニ」便「宜」ヲ「計」ル

「イ」タ「リ」テ「新」来「ノ」珍「客」モ「繁」外「早」ノ「英」海「軍」ニ「親」シ「キ」事「ガ」出「来」タ「リ」幸「福

「ニ」シ「フ」ベ「キ」テ「ア」ル

「ノイン」ドミタ「ブル」ノ「オ」サ「サ」ス「ク」オ「サ」シ「テ」前「部」デ「艦」尾「ノ」兵「員」居「住」ニ「充」テ「ル

艦「長」室「士」官「室」次「室」准「士」官「室」等 模「様」ハ「日」本「ノ」軍「艦」ト「大」同「ノ」異「ナ」リ

准「士」官「室」ハ「ノ」オ「フ」イ「サ」ス「ク」オ「サ」シ「テ」置「カ」テ「在」ル「コ」ト「ノ」許「リ」テ「ト」ガ「其」他「ノ」艦

モ「同」様「デ」ア「ル」 「オ」サ「サ」シ「テ」言「葉」ヲ「日」本「語」デ「士」官「ノ」訳「ス」ハ「嚴」格「ナ」リ「意」味「ハ

此「ノ」當「リ」得「ナ」イ「デ」寧「ロ」准「士」官「以」ニ「ト」稱「ス」ル「コ」ト「ア「ル」 即「チ」英「海」軍「ノ」「オ」サ「サ」シ「テ

言「葉」ハ「中」ニ「シ」テ「ユ」ラ「ン」ヨ「ン」ド「オ」サ「サ」シ「テ」「ノ」コ「ム」ニ「シ」テ「ヨ」ン「ド」ヲ「ラ」ント「オ」サ「サ」シ「テ

オ「サ」サ「シ」テ「ヨ」ン「ド」ニ「シ」テ「オ」サ「サ」シ「テ」上「及」ビ「テ」尉「以」上「ノ」兵「持」務「ニ」充「テ」我「ノ」准「士

官「ノ」類「似」ス「ル」モ「テ」ア「ル」 各「室」ニ「出」入「ス」ル「士」官「ノ」身「ノ」着「用」ノ「メ」シ「テ「ト」ノ「差」

食「自」由「ニ」シ「テ」其「ノ」カ「ラ」テ「ア」ル「コ」ト「ノ」士「官」室「士」官「總」計「廿」五「名」ヲ「シ

水「交」流「等」

0064





シテ各部分属を以テ四ヶ分隊ヲ編制シ居ル而シテ各隊長ハ大尉級ヲ以テ充テラレ  
但シ「ボーイ」ヲ取除ケテ別ニ一ヶ分隊ヲ組織シ最モ有爲トシ大尉ヲ分隊長トスル  
コト外ニ信号兵電信兵一ヶ分隊 雑部員即チ所謂「ボイ」ニテ一ヶ分隊  
ヲプリング一ヶ分隊 及び機南部員ヲ直ニ分隊ニテ分隊トシテ故ニ總計テ十二ヶ  
分隊トシテ各分隊員換人員調査ニ我海軍通リ日曜日午前ニ行フガ余ハ此處  
格デナイ

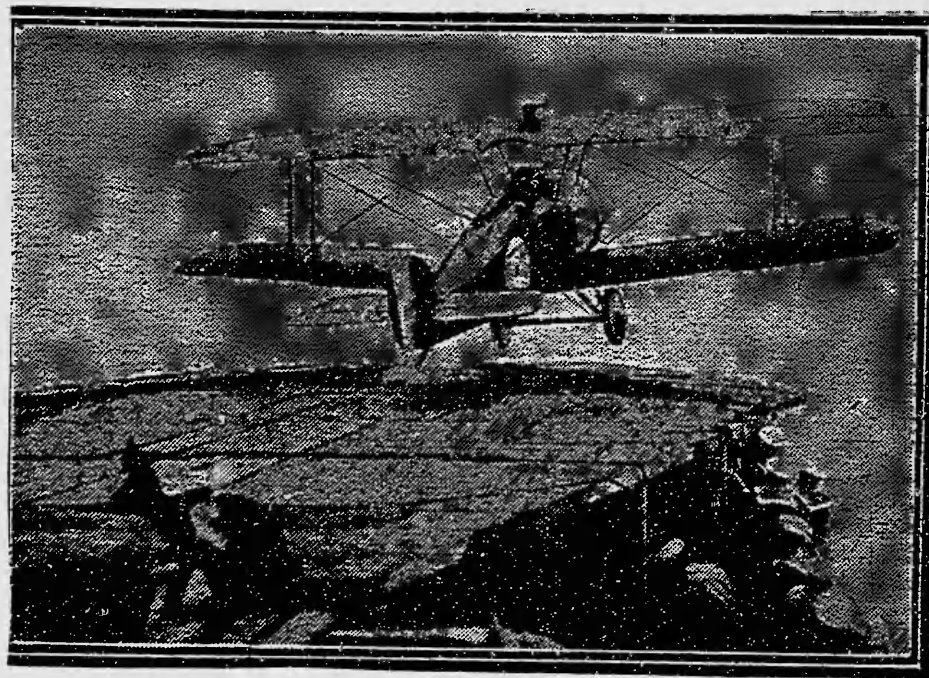
0067

飛行機ハ砲塔上ニ搭載セルニ台ヲ有スルガ砲塔ハ中央ニモ一基ヲ撰ニテ  
P砲塔上ニモ一人乗りノ戦闘用Q砲塔上ニモ二人乗り偵察用(英海軍ニテ  
前部砲塔ヲA.B.中央部砲塔ヲP.Q.右部砲塔ヲX.Y.ト云フ規定ナ  
ル)ト右者ヲ「ワンエンジン」ト俗稱ス何レモ「キヤム」式ヲ機軸ハ九等  
回転式前者ハ百五十馬力百二十哩右者ハ百三十馬力百哩ノ速カヲ有シ每一翼ハ  
昇降時間十分乃至十二分ナリ前者ハ「シリガ」モ「ポスト」モ「アルミニウム」ノ合金  
ヲ用キテ居ルノデアル 操縦者ヲ「パイロット」ト復察者ヲ「オブザーバント」ト稱ス此等ハ  
先ニ申シ後シタガ士官次室ニ属シテ居ルガ論此ハ副長ノキダ艦ニヨリテ士官室  
ニ入ルニ知モルニ廿歳前後ノ血氣盛ニキモガマイカラ次室ノ方が適当ト思ハレ

行動

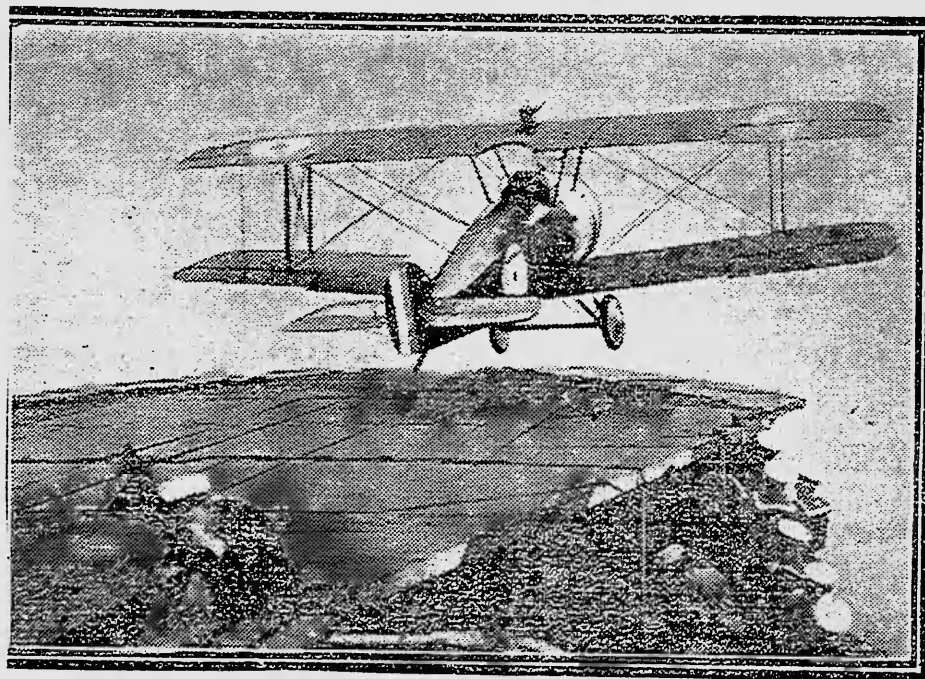
各艦隊共毎週ノ教練日ニ一定セシテ居ル I.B.C.S. 月曜日デ「ロイヤル」碇泊「ロイヤル」  
キー区島ノ東方ノ「ロイヤル」又「スカッパ」碇泊「ロイヤル」出動シ「サキヤ」止ル  
艦砲以下ノ射撃ヲ測距教練奥雷射撃ヲ行ス但シ大口至砲一射撃ヲ  
航空機砲一射撃ヲ演習ス北海ニ於テ実施スルナリ 勿論索敵ヤ諸掩蔽  
任務ヲ帯ビテ北海ニ出動スルコト可ナリ類艦ヲナリ  
大正七年一月廿七日 上陸ヲ帰ニ来ルノ直ニ「ロイヤル」ニテ「ロイヤル」翌廿八日午前

飛行機、母艦へ着く瞬間



0069 0068

飛行機、母艦の後、飛



0069 0068

二時夜陰ヲ昇テ出動ノイライシトテ過ギテ針路ヲ北東ニ定メテ北海ニ山動ス  
 前ニ別ニ合戦準備等ノ各々トナシ碇泊中「ハツセ」スカイライズ「スカウト」等ヲ密  
 閉シ彈丸等ヲ砲倒ニ用意スル午頃ガスヨリ定ツテ居ルモアラシク動作ニ極メテ  
 靜肅ニシテガキリシテ居ト氣ガ着カヌ位デアリ早朝艦橋ニ上ト航海長カ任  
 務ノ命令ヲ見セテ是レヲ「タイ」ニ打ツテ三枚ノ紙デアリ其ノ要領ヲ言ハガ我  
 隊即チ取ル「A隊」即チ「イニヤ」タル軍艦倫敦以下ノ機雷沈置機雷(諾  
 威沼岸ニ於ケル)ヲ掩護シ任務終了セバ「スカウト」ニ赴クベシトテ「ムカ」  
 廿八廿九日ト諾成テ連山ノ頭が見エ位ノ処ヲ彷徨シ其ノ間暇ツバシ「ア」ニ  
 コンプラ裝備シテ紙凡船ヲ形々ニ航空機砲射撃ノ練習ヲシテ各艦共ニ  
 奔モラナカヌ此ノ照準ヲ定メテ道員高キナイデアリ六月廿日早朝  
 三時半トス「スカウト」入港ス高緯度ノ島ニ番目ノ長イ今頃ノ夜ガナク春ノ  
 曙位ノ明サテ數哩隔テ碇泊シ居ル敵艦隊ノ極影モ明カニ認識シ  
 七月三日「I.B.C.S」ノ大砲射撃ヲ行ヒテ主則ト時半第二隊(假ニ名ヅク)「カ」  
 「カ」ト「イン」ヤ「ブ」ニ「ムカ」出港「カ」ニ諸島ノ南ニ下ツタ之ヲ先キ第一隊  
 「カ」ト「リヤ」(旗艦)「ニ」ニ「出港」ニテ「カ」想定ニ兩隊ガ「カ」ニ  
 南ニ下リ附近ニ出會フ敵味方「カ」編隊実弾射撃ヲ行フデアリ  
 別ニ標的ノ曳行セズ砲塔ニ始メリ或ニ程度ノ「カ」ヲ「カ」ノ敵隊針路  
 前部及「カ」部ニ照準セシムルデアリ始メ「カ」ト「カ」ト「カ」ト  
 タ「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト  
 照準ヲ行ヒ「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト  
 始メ午後一時半全部終了各艦毎砲ニ發射「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト  
 射撃「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト「カ」ト





空砲ヲ打タイ無言劇トシテ次第テアル無用ノ音ヲサセテ敵ニ知ラセタル處ノ  
骨頂トシテ諷テシテ其ノ間ニ戦艦戦隊モ現場ニ駢ケツケル斯クシテ午前中  
演習ヲ健行シ午後ハ互ニ保行ノ針路ヲ採リテ諸種ノ運動ヲ演習シテ  
早朝大艦隊全部ノ昇降ニ入港ス

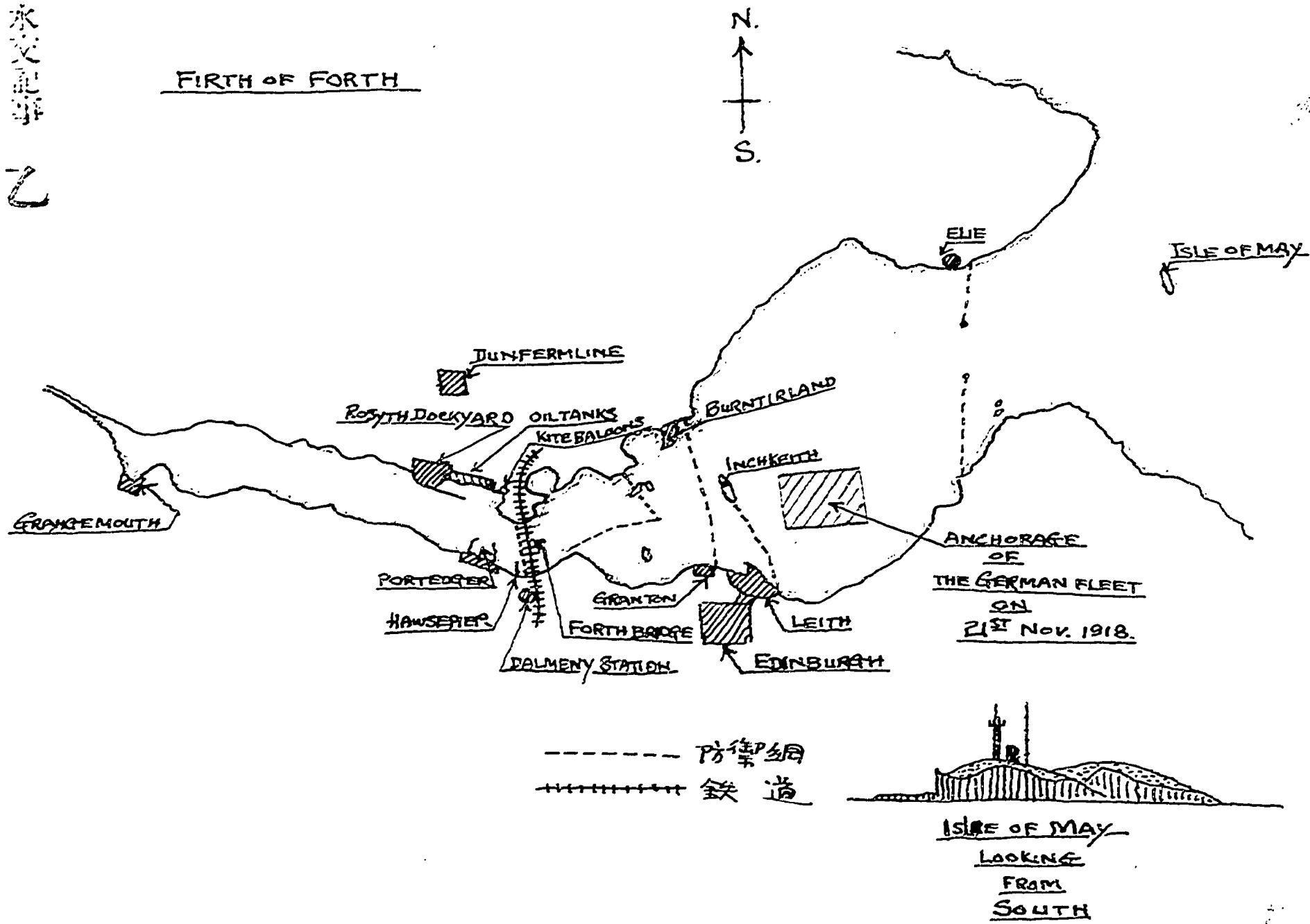
大艦隊ガ「昇降」ニ集マテ一番内ロニー上陸ノ際ノ混雑ナル十万人ノ兵ト  
三百十隻ノ艦艇トヲ包括スル大艦隊ニ向テ「ファースト」ニ決メテ「  
」言ハヌ「クランヂ」カラ「リス」ニ抜ケテ十餘哩ノ間戦艦戦隊及附属艦艇  
並ニ駆逐艦「橋」西方ノ岸ヲ艦隊及「第五」第「戦隊」附属ノ駆逐艦  
艦隊ト共ニ「橋」東方ニ敷設スル「コリーヤ」ト「ライラ」ト「西」ト「  
東方」ト「セント」ト「ライラ」トニ集合シテ「等」ニ積込ケル炭「右」陸上カラ供給  
スル病院船「東」西「各」隻工作船「西」ニ隻「下」ニ「潜」水艦「橋」  
扶士母艦ニ横付けス

上陸ノ要即ニ午後一時定期テ上リ午後七時、最後テ帰艦シタ「食」艦  
スル規定「お」ス「混」雑「言」ハ「士」官「大」部「分」ノ「目」標  
「突」進「故」ツ「止」車「場」立「艦」常「地」ト「思」フ「根」  
據「地」ヲ「我」物「類」ニ「振」舞「フ」居「タ」戦「隊」ノ「士」官「大」艦「隊」ヲ「見」テ「位」  
以上ノ士官ノ方、上陸シテ兵員ハ「エ」兵「行」ト「一」般「許」サ「レ」テ「役」務「地」方  
ノ「白」市「カ」ン「サ」リ「ト」知「近」主「入」ル「コ」ト「許」サ「レ」テ「知」ン「ル」ト「カ」キ「未」國ノ  
富「貴」ノ「カ」キ「シ」生「知」テ「后」史「的」ニ「大」分「由」諸「ノ」由「テ」カ「今」全「兵  
員」ノ「知」ル「全」艦「隊」ノ「兵」員「規」定「上」陸「許」シ「テ」バ「到」底「満」足「ス  
ル」處「ノ」兵「員」ノ「故」各「自」ニ「一」般「許」サ「レ」テ「一」般「許」サ「レ」テ「一」般「許」サ「レ」テ「一」般  
又「水」交「証」事「乙」

18.

水交記事

乙



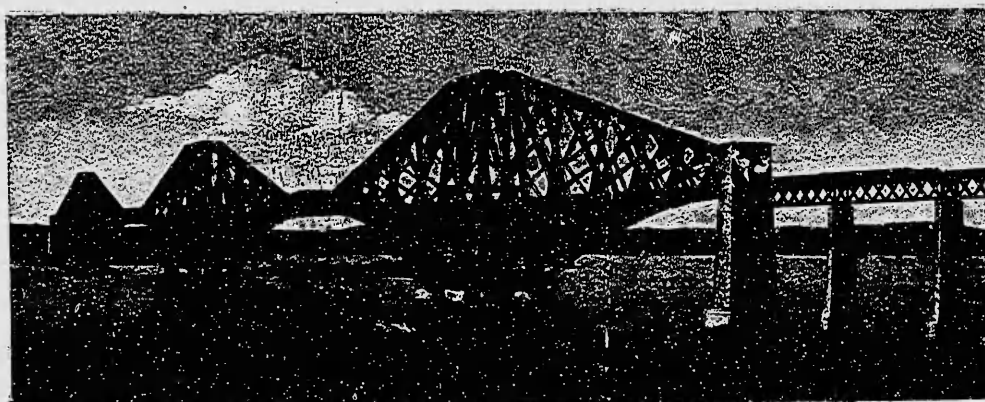
0073

19.

水交記事

乙

南ヨリ見ヲシ  
FORTH BRIDGE, ~~LOOKING~~ <sup>FROM</sup> NORTH.



**THE FORTH BRIDGE—THE LABOUR OF 5000 MEN (DAY AND NIGHT) FOR 7 YEARS.**  
ENGINEERS—SIR JOHN FOWLER & SIR BENJAMIN BAKER.  
CONTRACTOR—SIR WILLIAM ARROL.

**COST OVER £3,500,000.**

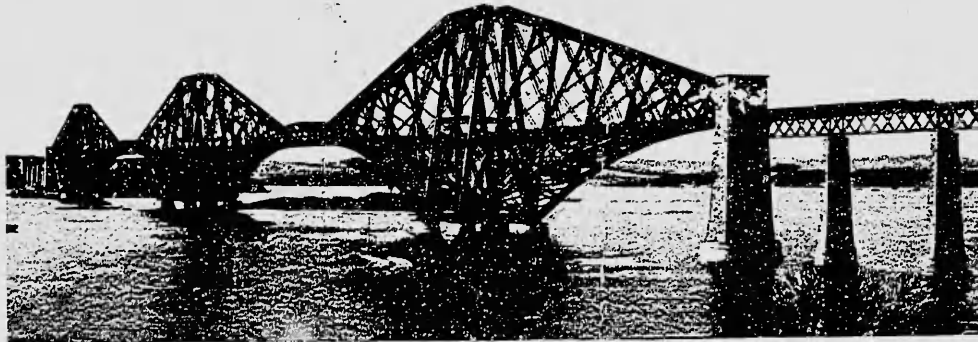
Total length of viaducts over 17 miles including approaches. Two clear spans of 1710 feet ea.  
Two spans of 680 feet ea. Highest part above high water level, 361 feet. Deepest foundation  
below high water level, 91 feet. Weight of steel used, 51,000 tons. Number of rivets,  
**5,000,000.**

0075 0074

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>



**THE FORTH BRIDGE—THE LABOUR OF 5000 MEN (DAY AND NIGHT) FOR 7 YEARS.**  
ENGINEERS—SIR JOHN FOWLER & SIR BENJAMIN BAKER.  
CONTRACTOR—SIR WILLIAM ARROL.

**COST OVER £3,500,000.**

Total length of viaducts over  $1\frac{1}{2}$  miles including approaches. Two clear spans of 1710 feet ea.  
Two spans of 680 feet ea. Highest part above high water level, 361 feet. Deepest foundation  
below high water level, 91 feet. Weight of steel used, 51,000 tons. Number of rivets,  
5,000,000.

0075 0074



要目

ルノールカーノーストニシテ麾下ニ第一第二巡洋艦戦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」  
第二巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「ネーリ」第三巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」  
第四巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」第五巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」  
第六巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」第七巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」  
第八巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」第九巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」  
第十巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」第十一巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」  
第十二巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」第十三巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」  
第十四巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」第十五巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」  
第十六巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」第十七巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」  
第十八巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」第十九巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」  
第二十巡洋艦隊(第一巡洋艦隊)「カトー」

水雷長(大尉) 十三時半砲塔指揮(少佐) 大尉ニ海兵少佐(一) 副砲指揮(少佐)  
大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督  
大尉(大尉) 弾着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督  
大尉(大尉) 弾着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督  
大尉(大尉) 弾着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督

大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督  
大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督  
大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督  
大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督

大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督  
大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督  
大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督  
大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督

大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督  
大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督  
大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督  
大尉(大尉) 砲着観測(大尉) 大尉(R.N.V.R.) (三) 無原 上甲板監督

2/ 水交...

艦隊機長... 採用する標準...

0077







火事ノアタリヲ知リ居ルカト聞イタ 全ク寢耳ニ水ノ管因テ戲談ラシムナト云フ  
ライヤ全クノ指シテ自令ガ直特校勤務中 其ノ日、早朝(午前二時)  
ニシテオスオス全境ニテ次第ヲ話シタ。多ク煙草ノ火位カラ起リ、シ  
ラウト清ニ居ルノコト皆起キテ向フタラ防火隊大デ協ニテシタソト云ヘタ  
テオスオスニ士官室ノ半カ位アル室デリナリイテアル。他ノ士官室モ大勢ノ  
知ラヌ。先ヅコシテ調子ニ呑氣アルヲ、寛容ノ態度ニ大ニ終スニテアル。コトヤ  
ラント、海軍ニ多数ノ軍艦ヲ失フタリ、コトソフ凡ナリカ、山宇マツノテ、イカド  
ルニ。然シ中々注意深イ知マテ、火薬庫ノ入口ニ「マツ」ヲ入レシ箱ヲ備ヘ  
其ノ内ニ「火薬庫」ノ入者。此知「マツ」ニ其他、燃焼ノ易キモノヲ入レ置クハ、  
駄<sup>ド</sup>フ<sup>ド</sup>。但シ「マツ」ガ「マツ」貴イ品、一ツツ今口迄ト云ス。范<sup>フ</sup>ニ「マツ」

石炭積<sup>シ</sup>、平常ノ時、華米長直車<sup>キ</sup>、又外ニ出ルキ、海<sup>ウ</sup>港<sup>ウ</sup>後直車<sup>キ</sup>行<sup>ク</sup>テ  
原則トシ、程度ニ滿載状態アル。石炭船ノ機体<sup>キ</sup>「マツ」、別<sup>レ</sup>モ「マツ」  
出サカ海<sup>ウ</sup>ニ行<sup>ク</sup>。一時ニ午<sup>ウ</sup>噸<sup>ウ</sup>ニ三<sup>ト</sup>搭載<sup>ス</sup>。其ノ一時間<sup>ウ</sup>「マツ」  
即チ四百ノ「マツ」トカラ約三百五<sup>ト</sup>噸平均<sup>ウ</sup>アル。但シ次<sup>ニ</sup>積<sup>ク</sup>時、早イハ、  
其ノ一時間<sup>ウ</sup>中、午<sup>ウ</sup>噸ヲ搭載<sup>ス</sup>。其ノ一時間<sup>ウ</sup>三百三十五噸ヲ搭載<sup>ス</sup>。コト  
ニ居<sup>ル</sup>カ、其ノ司令官<sup>ウ</sup>カラ信<sup>ウ</sup>テ、停<sup>ム</sup>状<sup>ウ</sup>ヲ知<sup>ル</sup>タリ、時<sup>ウ</sup>一人ノ士官<sup>ウ</sup>、早<sup>イ</sup>艦<sup>ウ</sup>  
「マツ」オン<sup>ウ</sup>デ、マ<sup>ウ</sup>ニ「マツ」ニ、一時間<sup>ウ</sup>四百噸ヲ搭載<sup>ス</sup>。各自<sup>ウ</sup>ノ「マツ」ニ本<sup>ウ</sup>ヲ賜<sup>フ</sup>  
カリ、面<sup>ウ</sup>ニ「マツ」ニ「マツ」ニ、一時間<sup>ウ</sup>、教<sup>ウ</sup>モ味<sup>ウ</sup>方<sup>ウ</sup>石炭積<sup>シ</sup>ニ一級<sup>ウ</sup>ニ「マツ」ヲ  
日課<sup>ウ</sup>

次ニ記ス。マツカ、一日課<sup>ウ</sup>デ、其ノ「マツ」ニ「マツ」大<sup>ウ</sup>同<sup>ウ</sup>カ異<sup>ウ</sup>カ、日<sup>ウ</sup>曜<sup>ウ</sup>日<sup>ウ</sup>ニ戦<sup>ウ</sup>  
時<sup>ウ</sup>中<sup>ウ</sup>「マツ」ニ全<sup>ウ</sup>程<sup>ウ</sup>、事<sup>ウ</sup>デ、ナイ<sup>ウ</sup>ト仕事<sup>ウ</sup>サシ、美<sup>ウ</sup>ノ字<sup>ウ</sup>教<sup>ウ</sup>上<sup>ウ</sup>ノ習<sup>ウ</sup>慣<sup>ウ</sup>アル  
水<sup>ウ</sup>交<sup>ウ</sup>証<sup>ウ</sup>書<sup>ウ</sup> 乙

0080

四

「キリシタン」

- 五、一。掌帳長席(ボクシメント) 衛兵伍長(ヒツツキバシ) 釣糸を番台「ホイ」起床
- 五、二。總負起立、釣糸捲し、及び格納
- 五、三。總負「コア」支給、身ヲ洗面
- 五、五七。身一聲、煙草盆引ケ(英海軍ハ「喰吐」トシテ)
- 六、〇。總負整列、「ホ」止下セ、上甲板及「ホ」止洗ケ方
- 六、四。士官衛兵釣糸上げ
- 七、五。大砲手入レ
- 七、三〇。当直機動艇「ホ」トクリ上、キ定、拭、身ヲ朝食
- 七、五〇。食事用意息及セ、身一聲
- 七、五五。解散、朝食、身ヲ後掃除
- 八、一五。当直「ホ」トクリ上、整列、点検
- 八、四〇。身一聲

- 八、四五。總負中、下甲板發シ、当直負、食事用意、身ヲ食事、掃階番中
- 下甲板、拭方、其他<sup>(上甲板)</sup>整列、(英海軍「水兵部負機回部」トシテ)
- 通心三直、配置ナリ、我海軍、如キ右舷直、丸舷直、制度ノ捲ツ、甲板掃階
- 九、〇七。身一聲、士官呼ビ、身ヲ身三聲
- 九、一〇。分隊点検、祈禱、説教(在部甲板ニ集合シ「キヤ」レニ行テ、艦長以下「キヤ」ケ「オ」ケ「イ」ニ「シ」ドニ「属」ス、出席ス「身」別「身」トシ、身ヲ)
- 右直運動位置ニ整列、身ヲ運動開始(運動「卒」トシ、課下士以上、監督ハ運動、種類、端典ニ体操、馬跳ニ行テ、綱上リ)
- 水交記

0081

一〇三〇。止メ煙草許ス

一〇四〇。事業<sup>ヲ</sup>止メ、(トイイ) 學術授業モ一時ニ止ム

一一四〇。事業止メ、甲板掃除

一二五〇。食事用意

一三〇〇。食事(ディナー) 以降上陸員ニ注意事項申シ渡シ方

一三二五〇。上陸員整列(普通) 上陸員トガ早ク出マシムコトモ早ク

一、一〇。總員中甲板<sup>下</sup> 直員食事 中甲板拭方 其他モ一整理

一、二五。一四五大砲午入(機司令部ノ事業ニハシ)

一、五〇。解散 事業<sup>ヲ</sup>止ム

三、四、五。止メ、甲板掃除 下甲板下ノ直員<sup>ノ</sup> B.C. 等ノ防水靴用メノ

(英國軍艦ノ防水靴 A.B.C. 分類セラル A. 必要ニ夜ニ用續ル)

モントニアガ如キミデアル我海軍ノ ① ② 等ニ相当スルナリ

四〇〇。軍事点検(カクスター) 食事用意(ナシ) 夜服ニ着換

五〇〇。スタート上(軍事点検) 機司令部ノ四時迄(事業入)

日没後 整列 外艦ニ頭ハシ 燈消シ方 通シノ際ノカト上ト下

(機動艇 端艇共ニ夜艦内ニ収メ規別ナリ)

六、五、五。食事用意

七、〇、〇。夕食(サラン)

七、三〇。士官衛兵釣糸下

八、〇、〇。コイトゴートクニ 直航空機破員 搭照燈員整列

八、一五。釣糸下ニ方用意

八、三〇。總員釣糸下セツルナリ(整列) 巡検用意

水交記事

0082

九。副長巡檢(先導シ「パスポート」申第二先任以下がナス。副長、右ニ附リ

モ、我海軍ト大同ノ異ナシ、但シ甲板士官ナモ、英國海軍ニシテイ

一〇。煙草盆引キ

被服縫繕ヒ(普通木曜日ニ於テ行フ)

一〇。〇。昼食(ティナリ) 總負被服縫繕ヒナリ

三。五。食事用意

四。〇。〇。ティナリ(茶)

四。四。總負中甲板及煙草盆引キ、中下甲板拭掃、甲板掃掃

其他、上甲板、整列、甲板片、中甲板

五。〇。軍事点檢

土曜日

早朝 〇。〇。ウキ、テ、ノ、日課ト同様、但シ朝食迄、三直共上甲板及中甲板

洗ヒ、大砲手ヲ行ハス

七。五。食事用意

七。五。朝食 右ニ付テ方

八。〇。片一声

八。四。各直練習、マ、テ、キ、属方、上甲板掃掃、掃除

一。二。五。食事用意

二。三。〇。昼食(ティナリ)

一。一。中下甲板及、各直食事、掃除、中下甲板、拭方、其他

各直整列

一。二。五。大砲手入

水交記 乙

0083

二、三。G一声

三、五。各直又ニ当直部呼ビ方煙草盆出セ、昇テ被服縫繕方又ニ「キ」

テシ、日課実施

日曜日

總負託シ及ビ整列「ヨキ」テ「日課」ヲ世令通ラス

八、五。G一声

八、五五。「ヨキ」テ「日課」同様「ヨキ」

九、二五。G一声「ヨキ」呼ビ「ヨキ」

二、三。分隊点検、次ニ教会（「ヨキ」テ「上」甲板ノ一室ヲ「腰」梅ヲ備ヘテ並

通、教令通り「ヨキ」ス。鏡モ陸上通リニ鳴ラス「ヨキ」オ「イン」ガ「ヨキ」

以外ノ教徒「ヨキ」陸上ノ教会ニ赴クカ又ニ艦隊中一艦ニ「ヨキ」

「ヨキ」オ「イン」ガ「ヨキ」

午後に被服縫繕方及ビ休業

機動艇端艇「ヨキ」在ル時「ヨキ」揚ゲ「ヨキ」吊ケ「ヨキ」夕方ノ教会ヲ「ヨキ」

上陸規定

月曜日

「ストーカー」

「ヨキ」及ビ当直勤務ノ順「ヨキ」

火曜日

「ストーカー」

練習中「ヨキ」当直勤務ノ後備員（「ヨキ」オ「イン」ガ「ヨキ」）

水曜日

「ストーカー」

水兵ニ直分、当直勤務ノ順「ヨキ」オ「イン」ガ「ヨキ」

日曜日

後備員

水交記事

乙

当直勤務「ヨキ」オ「イン」ガ「ヨキ」

732

0084

下士官以上三百、中二白以上僅が出来る。但し大艦隊が「早稲」に在る間、前庄へ通  
中々ソレが出来ず。

「キタ」御来暗ト東伏見宮殿下、御訪問

「キタ」十九百十八年三月二日大艦隊に来り、即ち七月廿二日夕方二日間に御来暗

隊降服ノ前日(十月廿日)トナリ、大艦隊ハ七月、初回、途中一週間許リ

「スガ」ニ赴イタリ、<sup>(休養)</sup>「ロサイ」ニ居、故同地ト降下ヲ御迎ヒテ、第一回

御来暗ノ時、第一回「オ」ニテ艦隊ヲ御検閲、東員ハ登陸式トシテ

「フレ」ニ去リ、御迎ヘ「甲」ニシテ旗艦「Q. E.」ト「カ」ニシテガハ

事ヲ英海軍ニ「キ」ニ「ト」ト畧称ス「ア」ニシテ「R. R.」ト稱ス

「米」國艦隊司令官「ロ」トシテ、以下「ロ」ニシテ「カ」トシテ、其他ノ「カ」

ニシテ「カ」トシテ、授子セシメ、此等外人外國武官モ降下ニ握リ、先

ヲ得、授子式ニ集リ、英海軍艦二隻ヲテ居、觀戰武官、日本ノ外佐、<sup>(主官名)</sup>

西ノ大佐(「カ」)一名ト支那ノ中佐(「カ」)一名トシテ、此日潜水

艇其他ヲ檢閲シ、<sup>(カ)</sup>三戰隊旗艦「カ」トシテ、及ビ米國艦隊旗艦

「カ」トシテ、余又「カ」トシテ、降下シ、艦員ノ分列式ニ列シ

降下シ、艦中、設ケテ、坐ニ直シ、<sup>(カ)</sup>椰子、皮が艦ノ「カ」トシテ

「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>右側ニ「カ」トシテ、海軍、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ

、十一吋砲彈が奇麗ニ着カニ「カ」トシテ、艦員ハ十官ヲ見、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ

令隊編、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、降下シ、前行進シ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ

降下シ、砲臺カラ飛行機ノ御前飛行ヲ始シ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ

、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ

、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ

、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ

、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ

、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ

、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ、<sup>(カ)</sup>「カ」トシテ

0085







全の様ナリ幕僚が居ル

運動と樂業

英國人ノ運動好キナトト周々知レ渡ッテ居ルガ中ニ入ッテ見ル一層ソノ感ヲ得イ  
 コトカシニ軍ニト向モテ I.B.C.S. ノキートトニカアルト云フテ「毎朝早朝カウ全馬カ  
 ヲ掛ケテ 等古テ居ルソノ兵隊許リナク候補主ヤ士官室ノ若イ士官員ノ勿  
 論 四十七歳ノ船家機長ノ筆頭中老連ガ「バテラン」ニ出ル「打ト」フ  
 テ汗水タラシテ居ル様ナリ「セリ」モ彼等ノ好物デ候補主連ガ善クお  
 梅ケル仲々馴レシテ居ル一休彼等ノ先天的ニ船ノ極キウイカク又先ア争カ  
 順番ヲ待ツ雅量ガ此レカ知ラナイヤ 毎日「お」シテ暗黒ノ中ニ無教ノ定  
 期様動機ガ集ルニ物ニ付ケテ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シ  
 ノハ蒸氣ノ居間 構内 船氣水雷艇ノ沈没ガ之先方ニ過  
 ラシイ  
 ヲ女トト 歲該半分ニ數モ成ス様ニテラ 水泳ニ一度ニ三人ガ泳イ  
 テ居ルヲ見タ大デ「お」シタリ又泳グル者「極」ク少敷ナリ 夏アモ羅伯ノ  
 星服デ通ス氣味ガカラ全ク泳バ時時「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ  
 テアシモ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シ  
 階近「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シ  
 泊「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シ  
 ハ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シ  
 ガ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シ  
 全シイカラ負人ニ出テ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シ  
 海軍「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シタリ「お」シ  
 水交記事

度我海軍ノ相撲ノ様ナモデアル 本艦隊ノ聯合ヲモテ時々出帆ヲ擧げ  
シテ之ニ門技場ヲ設ケ艦一方ニ臨時ノ持敷ヲ設ケテナド大仕掛ヲ為シ  
ガシニ居ルノメトシテ道ノ海者ヲ大艦隊ノノボリニシテ一ツヤレシ  
テ大ニ得意ガアラフ

舞臺

舞臺上カデハ活劇早直ガ一番ツボラシクナリ 兵員ノ方デハ唯一ノ舞臺ナラフ

米國ノ活劇会社ニ備ヘテ居ル早川雲州ト云フノ役者一役、日本物カ山カハ  
スレ全クノ人トコトガアル 士官室ニハ五穴ガカガカ又晩夕及下  
全ク暗クテトナメトナドモニシテ「カ」モ行ハレハ噂ヲ「日本  
ナリ 時々兵員ノコソナト」ガカハ舞臺モ道具モナリト持  
レドイナド出テ来シ他艦ノ軍員ヲ呼ビテ時々陸上ノ小屋ヲ  
家族ニ見カリスレトモアル 之ヲ米國ノ軍艦ガ一番大仕掛  
士官又晩夕及他艦ノ士官ヤ自艦ノ士官ト呼ブコトヲ専  
合ノ事ノ意義ハ吾人ト云テモ云ハレ

ラ又操縦ノ相手ニ善イノ居ラヌモアラウ 要するニ彼等ノ共同生活ヲ  
ニヤラウトシテ心掛ケテ居ル故ニ内及外ニ居ルニモ表面ニ  
誇ルノ様ト見カレガ無クイ 食卓ニ席次ヲ定メヌモ相  
持 操縦ノ相手が「タイカ」バニ士官ガ時々知人トシテ  
ノ依頼ノモトトシテ「マ」場合ニ負ヒテモ

飛行機ノ  
輕巡洋艦以上ニシテ飛行機ヲ搭載シ居ルコト(皆デハナイガ)時  
アルノ外陸上ニモ所々飛行機ガアリ 砲台中ニモ飛行機ノ大機  
ニテ舊古トシ居ル 数が多ク大ニ事故ノ頻繁ナド戦事ノ飛行機  
水交記 乙

0089



ト云フソレテ愈々独逸ノ艦が華出ニ来タゲカテト聞クハ側隣ニテ余幸  
 フニテ居ル大尉が「昨夜十時暗夜中ノ潜水艇ヲ獨逸ノ巡洋艦四隻北  
 海ニ顯ニ見トシテ信身が在ラタ橋ノ下ロヲ入ルニ機長「側方ノ艦」  
 若シ戦闘が始ヌレバキフト勝ヲ思フ。自今ノ東ヲ居ル艦ニ鉄砲弾ニ命中  
 シトイトシテ自覚ヲ持テ居ルト氣強イコトヲ云フ。士官「味方ノ  
 巡洋艦ノ動力カ不安ヲ持テ居ルニ從テ日本ノ巡洋艦ヲ避クニ注意  
 ラルニ横濱長崎ノ名ヲ知ラヌ先生迄比敵全剛橋名兩島ノ名ト要  
 目大。暗誦シ時々余ニ送扱ヲ喰ハセルコトガアル。全剛。今何知ニ居ル何時  
 ロサイスニ来ル。早ク来テト向ニ合ハシイヤナイカ。ト云フテ通ハル十五日未  
 ルトドモカイルトナド馬席ヲ難題ヲ吹掛ケ日露戦争ノ時コトイヤンコト  
 進春日ノ田航ヲ陰ニ助ケテ話シカトスル事合セシ。勿論之ニ遠慮ノ意  
 取リ艦長ノ所謂「余ガワンオボクニナシニナシテ向ノ事アル。九日  
 副長が突如余ニ日本ノ巡洋艦が英國ニ来ラズル様分不ト申テ海ノ中ニ  
 ハ一寸間諜ヲイテ然ニシテ許リ合ハコソノ止殿下和全剛が霧島(?)  
 デ和勝艦ノ西海岸近所戻リシタリ云フ日本ノ新聞ヲ見テ成程艦  
 此ガナリノ氣が何イタ

キ前ノ暗メリアイランコトヲ九松佐部ニ見テアイモ無頓着ナ一人ノ士官  
 甲校ヲ舞フ今日コソ一戦争アリソコトト演劇ヲ見ニ行ク様ト調子ヲ余ニ  
 云フタスルトリノ言葉が了ルカヲリヌ向ニ「ライオン」ガ十右左ノ方向  
 船ヲ尋テ全艦隊之ニ從テ南ビロサイスニ引返シテ敵艦隊が逃  
 シンウターデーア  
 九日世界日報 十月廿三日 同日 橋ノ下トガマタ 佐部一 場合ニ三日許ニ此

海ノノキルシラヤフテ帰ンテ許リテ石炭ヲクニ百噸積ムト直ニ出  
 相テラ一晩中ノモロモロモ下サズ戰鬥配置一就イテ敵艦ヲ追テ敵ヲ追  
 シテシラウタ其ノ傍機雷沈置掩護ノ任務ヲ午ニシテ比時艦隊ハ  
 ラサ荒天ニ出令ニ附隨一駆逐艦ナド何処カニ次チテ隠シテシラウタソレモ  
 海ガヤサム大ニ風ノ風イテ右ニケリトシテ水ヲ打ヒシコト点ニ魚デレシ  
 然シ荒天ノ向ニ砲門ヲヤハツヒカラ浪ガ打ヒシ艦隊ニ下手ナシ水ノ様  
 テミゲ目ナヤデアツタ 艦カニナテカラ 諸敵ノ山ガ逃カニ見テ揚チ怒アテラ  
 右ニ一居タガ爆声ト共ニ非常ニシヨツク 艦隊ニ感シタ 始メノ時ニ浪  
 水艦カ機雷ニヤラレタノハナイカト思フタ 然シ敵々南テ見ルニ其ノ時  
 ナ浪許リ離レタ処デ設置シテ居タ 機雷ガ米國製デ品物ガ善クナイ  
 爲メニ投入右自爆ヲ起シシノ 御書ガ来タノ知ラセタ 何デモ十五ノ同  
 電報ガ来タ様ニ記勝ス 大分右デコシト止ノコシテハ氏ニ今シテ時  
 法ニ一序ニ實際独逸艦隊ニ度々出テ来タテスト聞イラシ 潜水艇  
 ニ見タトシテ知ラシテ来タメガ確リシタ処ニ分ラナイヤ 此ニシテ  
 「タイガ」ニ乗テカラ大艦隊ノ演習ニ二度アツタ 故メニ八月廿三日次ニ九月  
 廿四日テ場所ニ前同目標北海ノ洋向ニ假想敵「Ice」及「Ice」並ニ附屬艦隊  
 何モ荒天デ始メ場合ニ晴シテ居ラシ右ノ時ニ艦隊ヲ視界ニ充テテ  
 アツタ 九月廿四日演習後戦艦各隊ニシラウタニシテ 艦隊ガ十月一日又  
 突如「ロイヤル」ニシテ来タソノ前日ニ独逸艦隊ノ出動ニシテ 報モアツタ  
 「ロイヤル」ニシテ来タソノ前日ニ 明ク一爾来大艦隊ニ休戦ニ全部  
 「ロイヤル」ニシテ来タソノ前日ニ 明ク一爾来大艦隊ニ休戦ニ全部  
 「ロイヤル」ニシテ来タソノ前日ニ 明ク一爾来大艦隊ニ休戦ニ全部

大至砲射撃を二度出撃した。此頃、ロザークスから「行カズ」バローウキツカラ  
「ニューキウス」沖ニカケテ行ク。始メ、場合「ロバ」区対「タイガ」右の場合、  
「ロバ」区「ロウ」対「タイガ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上  
実艦標的ヲ行ツ。射撃ヲシテ「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上

古イ記事ヲ「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上  
戦時、出港時向ヲ「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上

「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上  
前日、向、三、五、八、九、五、七

補助艦船

石炭船、油船、艦隊ノ行動ニシテ「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上

「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上  
揚地ニ集合シ各艦ニ糧食ヲ供給スル。新トイ「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上

有ルニ名前アリ  
「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上

「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上  
即チ「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上

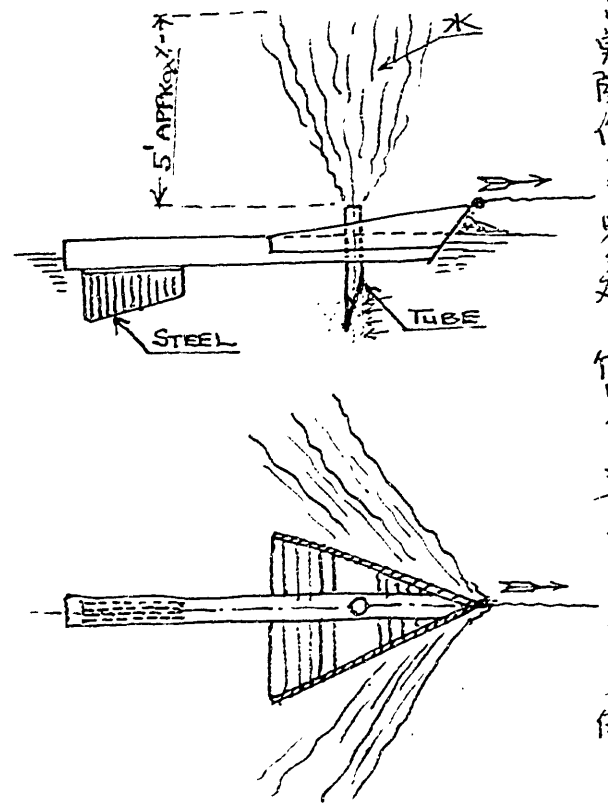
「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上  
「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上

「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上  
「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上「ロバ」区「ロウ」上

0093

發明

戦争が一面に於て科擧テノ競走ノ觀ニ以上英海軍ノ新考案ニ対スル努力ノ程モ大方容認セヨウ。只考案ニ幾多ノ階段ヲ全ニシテ實施地ニ試ムルニ由テ其ノ價値ガ顯ハルニテ豊富ニ資カトエ場ト有ス英國ノアトニ於テ誠ニ幸福アルコト方面ニ於テ懸念アル我海軍ノテ一日頃ノ新考案ヲ遂ニ成スト同時ニユテ實現シテ成績ヲ研究シ得ルニ特種機關ガ必要ニシノカヲバイン「現」ロサニス「司令長官」ハ「息多」ル海軍大尉「發明」ガ「發明者」英海軍「ヨリ」三カ時聯合國海軍「ヨリ」四カ時「高貴」金ヲ得タト聞キ及バ大艦隊「テモ」各艦「ニ」ヲ搭載シ北海ニ出動スル時「終」極シテ「張」ワテ航行ス。未ダ機雷「ノ」引キカウ「事」ハ「イ」ン「テ」アルガ然シ航海「機雷」ノ輕減スルコトハ蓋シ勤チハ「ル」ル。高貴「モ」過大ト「言」ハ「テ」ハ「誤」アル。下ラナイ考案「ハ」ニ「對」シ「カ」ニ「テ」西「洋」ノ「航行」ノ「際」一「度」行「物」ト「シ」テ「高」貴「金」ヲ「モ」テ「考」案「シ」實際「作」ラ「テ」見「タ」知「ガ」結果「ガ」善「イ」ン「ト」ス「ル」一「例」ト「シ」テ「何」レ「ハ」ニ「シ」ト「ス」



0094





インドニテフルテ、余リ揮練ガナカシタガ、  
サハルン午前中ニ戦門教練ヲヤフテ居ル砲雷教練ト共ニ防大隊ノ教練ニ  
ノ類ニシテ、米國艦隊ニ可ナリ戦門教練ヲヤフテ居ル。港内ニ大砲  
一砲一奇砲等ヲ運ツテ英艦隊ノ目ヲ見張ラシメテ居ル。  
日曜ニハ艦内ニ檢、後ニ令隊直検ノ人員調査ヲヤル。令隊直検  
「インシジョン」人員調査「マスター」ガハセ、オープンリストト称スル。艦長ハ  
「デパル」前ニ「官甲校」ニテ兵員ニ主計官ノ呼ビ出シテ令隊直検ノ人員  
一人ソノ上ニ前位ニ知ニ顯ノ帽子ヲ取リ、善行ノ行ハシテ、  
先任補兵任意ニ答ヘシ。令隊直検ノ外ニ、  
休戦條約ノ前立

0096

十月三日、軍港ニ起リ、獨逸水兵ノ暴動ノ旨ニ新聞ニ報  
得ニ共ニ見外ニ感ニ打メ、  
トシテ人達ニ余ヲ「  
英國ノ新聞ニ顯シタ如カラ筒ニ顯シテ述ビ、  
獨逸艦隊ノ十月ノ末ニ最後ニ戦ヲ試ムル諸般ノ準備ヲ整ヘ、十月廿日  
（水曜日）ニ出動ノ命令ガ下ラ、  
名目ニ大演習トシ、  
ニ送ラ、  
死地ニ望ム、  
艦隊（  
タニ、  
令ガ下ラ、

36  
水兵暴動



ノ意味ヲハナイ。ドーニフ風ニ変化スルヲ判ラナイ。アノカラ 戦闘ニ対スル準備覚悟ハ  
クシテモ従来ト変ルコトガアツテナラヌ。 諸君ガ四年有命ヲ慢ニ我慢ヲシテ今  
日第一ニ起ル希望即チヨリ自由ニ上陸 許可ト云フコトハ自分モ衷心ヨリ考ヘテ  
居ル然レ今ノ時期ナク故暫ク隠忍シ適当ノ場合ニ之ヲ改善ス積リニ  
アルト云フ訣ダ。 此日兵員ニ対シテ酒ハ供給ヲ倍額ニスル命令ガ出ラ  
蓋シ戦争開始以来前例ノイコトナクソテ「スプライング・オブ・メイン・ブリス」  
ト稱シ居ル。余ハ此日午後「エデンズ」ニ赴イテ街ノ景況ヲ見タリ。白頭物事ヲ騷  
カヌ英人モ今日許リハ凡テノ自制ヲ撤棄シテ喜ビハ舞臺ニ自他  
ニ放任シテ居タリ。午後八時晚餐 前庭カニ何処ノ船カラト云フコトナレニ  
探照燈ヲ点シテカサレシラ鳴ラヌ。戦艦ノ船ヲ上げル午後九時ニ至リ其ノ  
絶頂ニ達シ所謂「サントネロ」モ四時半ノ沈黙ヲ一時ニ破リ空ヲ照  
ス探照燈ハ四百五十度モ先ノ敵國海軍ノ見エリセマカト思ハレ位デアラ  
タイガレテ日本軍艦旗ヲモ「ヤ」トニ掲ゲ探照燈ヲ之ヲ照シテ余ニ敬意  
ヲ払フテ居レタ。キ一方又艦旗ヲ道化者ガ馬鹿 雑シテ先頭ニシテ艦旗ヲ  
縛リ居タト亦次男ニ之ニテ 日本軍艦旗トシテ 日本軍艦旗トシテ  
標ト騷キガ 十時ニナツテ各艦探照燈ト「サ」シテ上ノ喜ビハ中  
心ニ懸ルバンテ其官室ニ集ツテ 艦長ガ来リ進士官ガ来リ道化ノ隊ガ入リテ  
艦隊校官等ノヨリ「サ」シテ「サ」シテ始ル終ニ「コ」ク「コ」ク「コ」ク「コ」ク  
ト云フ 騷キテ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ  
也シテ四五百ナリ日モ甚シク仕事ガ 酬イラレタニ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ「サ」シテ  
云フテモ善ク位ナリ

38 水交艦隊乙

0098



英海軍の新聞記者が艦隊の各艦に配属して、各艦の状況を報告している。巴里のカー  
デーから各一人宛来た。天気が善く、夕方に皆大喜びである。

九時四十分、海霧が破れて、艦影の頭を先導艦、

カーデーの艦隊が「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊及び「ロビンソン」

の艦隊の四隻が先頭を走らせた。その後、ボンナリニテ能く合流し、一時

IBCS 十六点、方向転換した。独逸の艦隊は平行の位置をとり、

アームに向つた。独逸の艦隊は真黒の煙を吐き、居る儘に、速かに

天に沖スル。状況を見ても「ウエスト」の艦隊は「ロビンソン」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

「ロビンソン」の艦隊は「モントゴメリー」の艦隊と「デューク」の艦隊と

0100

水交記事

水交記事

水交記事

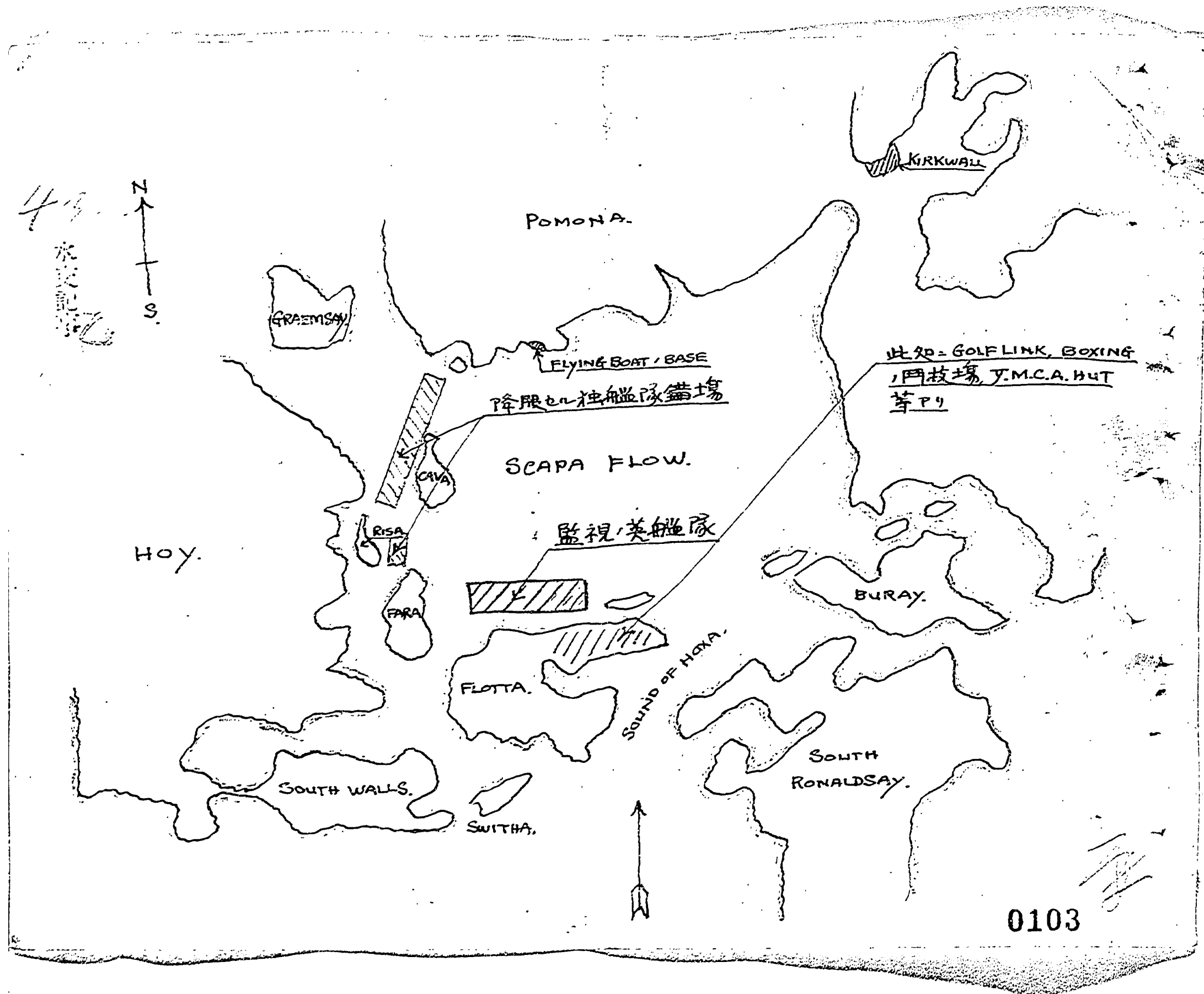


ソノ銀ノコトヲシテ多ク紀念ノ文字ヲ書イテアソトニテ話シガ  
 廿四日カラ降服艦隊ノスカンパノ護送ガ始マリ第一日ニ洋戦艦並ニ輕  
 巡洋艦及駆逐艦一却テ同行ノ英艦隊IES並ニ輕巡隊並ニ駆逐隊若  
 カ任命セシメライオン先導下ニコウトリソ以下五隻ガ緩キノ合ニロ  
 ム以下ガ監視ヲシ隔テ九艦カラ監視スヨナニ層キ羊ヲ追フテ行  
 クト変ナキ之ガテ月前迄北極ニ出タシ英艦隊ノ目上一痛テアソ  
 フ思フト夢ノ様デアリ翌廿五日午前九時廿分三重ニ網ヲ張ラシタ  
 口和邊ギ暫時白ノロー南西難方ノコト島ニ近キ知ニ敵味方相違  
 碇ヲ下シ英艦隊直ニ石炭積ヲ始メタヲ獨逸ノ兵員珍シウニ三  
 伍々上甲板ニ圍テテ四周ノ景色ヲ見テ居ンソノ中ニコウトリ  
 艦ニ出テ縱横無事ニ掃蕩ノ周囲ヲ巡リ見ヨガシソノ前ニ着クニ  
 見シト士官ノ流石ニ上甲板ニ見テカラ兵員連ハコト皮肉ヲ有難ク見物  
 居ニ探シテマシマ向ニ英艦隊ノ航海長ガ獨逸ノ各艦ニ東艦ニ二時  
 一五ノ上ノ島影ニ移シテマシマ翌廿六日コウトリノ級ガ五隻並ニ小艦  
 ソノ翌日コウトリノ下ノ級ガIES及ビ相當艦ニ掩護セテマシマ  
 戦役中英海軍ノ主ニ任務ヲ終ラシマカラ各艦隊ガ交代  
 監視スルガ事艦内ノ暇ニカキテ上下共魚釣リガ大流行ニマシマシ  
 釣ルニテアルノ十二日ニ米國艦隊(独逸艦降服右ノ米艦到着)大艦隊  
 離レテコウトリノ向ニ在泊ノ艦艇「オーストリア」等  
 カシニ余モ母等ノ貴重ニ見聞ヲ志シヌ林頭ニ置置ニ以テ思出ヌ  
 英艦隊ヲ去テマシマ

0102

4  
乙 水交記事





去ニ臨ニ長官の占中時ヨリラン此ニ招待セタガ其前種々独逸ノ艦  
 コトヲ思想上一事ヲモ説カシタ。コトトシテ止建造當時昔話ニモセラレ日本カラ  
 一時帰英多時「年々シヤ」元師カラ「ドレドレ」止ノ模型ヲ見セシテ決ニテ  
 コトヲ誰モ口外セセ又昔推折言ハト強イラレタコトヤ。日本ノ士官ニ又「セテ話ス  
 義務ガアルト抗辨シタコト又大艦ノ魚雷ガ防禦的ノ意味デアレコトナド  
 話サレタ。素人ノ余リカシテ対ニ間諜ツイタ。巡洋戦艦ノコトモ論じラレ  
 丁ニ級ノ防禦薄弱ニ自分ノ主張ヲ知ル合致シナイト説キ「アト型ノ理  
 想的ナルハ近々同艦ノ工事ヲ視察スル積「アルト」言ハシタ。終ニ「日英ノ  
 風俗習慣」非常ニ異ナリテ見エルケル思想ノ機微ニ触レテ見ルト相通ジテ  
 ル知ガ多イト自分ノ思ハル君モ必ズ左様ニ感じタコト、信ズルガ將來日本ニ海軍  
 カラ「自」英國海軍トシテモ「日本ノ海軍」結ニ「決」志レ「コト」ナカランコト  
 ヲ希望スル「ト」述バシタ

戦時中英國造艦造船高

編ラリ「ニ」ダリ「一」言ハ「数字」ヲ述ベテ見ヨウ

造艦高(完成セルモノ)建造中ノモノ者々

巡洋戦艦 (カローラ) 五隻

軽巡洋艦 二七隻

駆逐艦 二七隻

スループ 約二百三十隻

潜水艦 約百五十隻

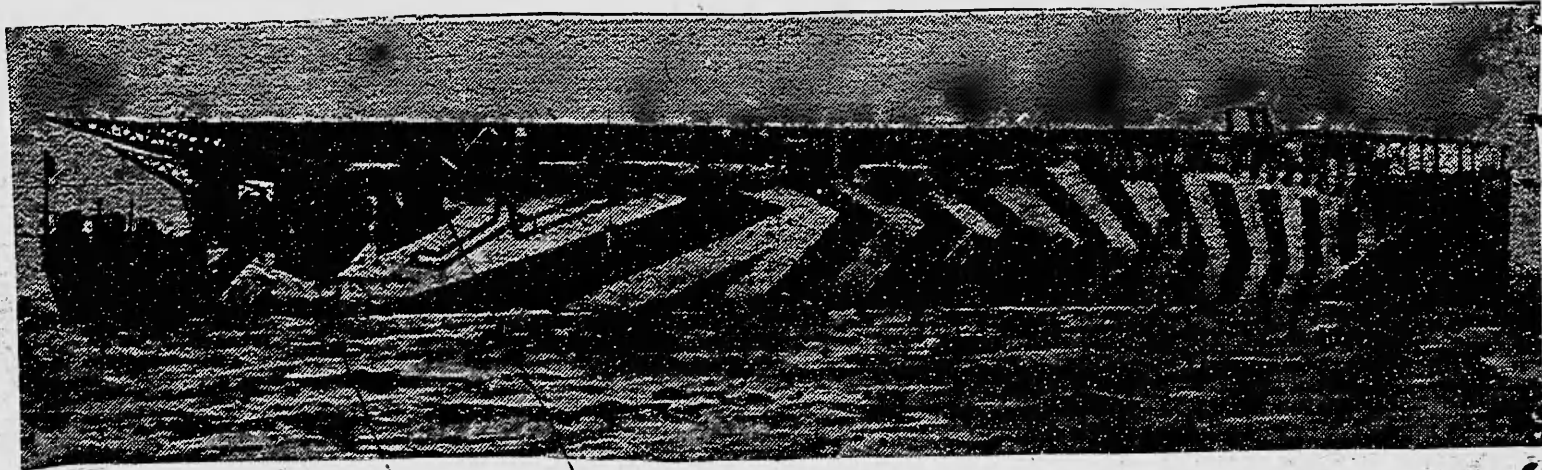
モーターボート及「ユスマ」モーターボート 約百五十隻

(モーターボート) 未調査

45  
乙

水交記等

飛行機母艦、P-51 (九月廿一日 ロサイに着)



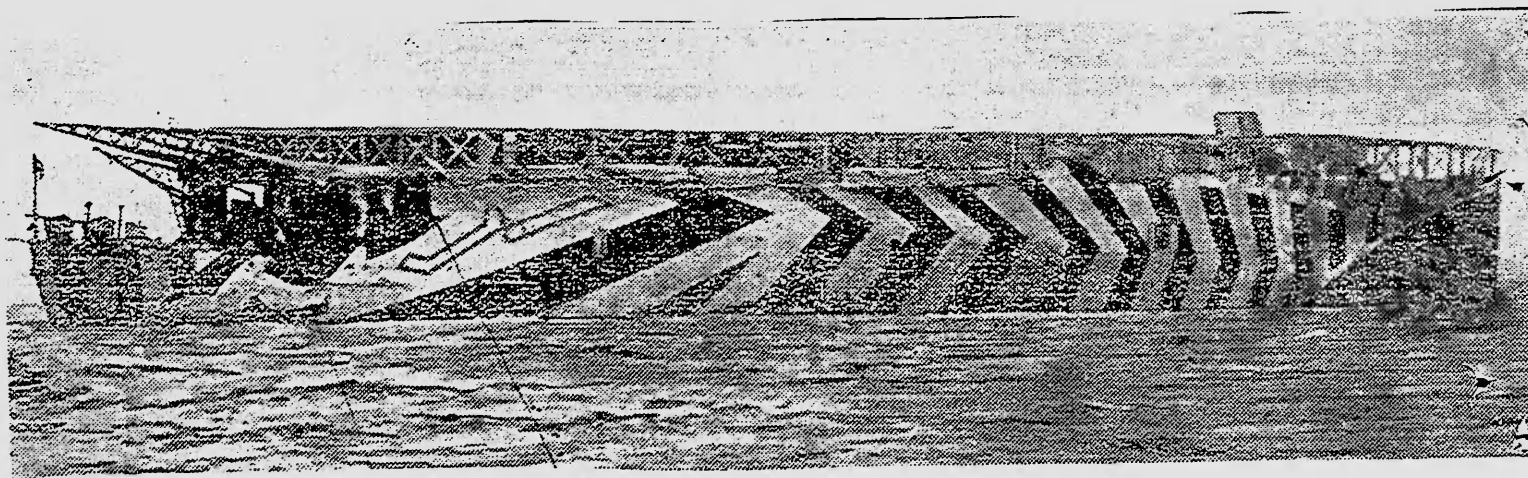
此が風が船尾ヨリ来ル時、排煙口 (西船=P1)

普通、時、排煙口、此又=P1右部=向テ開口 (西船=P1)

0106 0105

水交船

航行機母船、一がス(此船の船名)



此船、船尾の煙口、時、排煙口(兩船)

航行時、排煙口、此船の右部、向う側(兩船)

0106 0105

「フリートオインキマリヤ」  
其ノ他

約四十隻又

約十隻又

合計約千四百十二隻

0107

但右内ニ「タイカ」P. 6のE. 級、如ク潜水戦争ノ始メニ進水シテ居ツタ

モノヲ合フナド、「モリス」ノ十時砲<sup>生トテ</sup>、向テ戦艦ノモノヲ使甲<sup>トシテ</sup>「アムス」

高船ノ建造高シク九百十四年八月カラ千九百十八年十月廿四日ニ四百

三十四萬噸(「グローストネール」)「アムス」ヲヤチ「ムト陸軍」ト建

設ク之ニ加ヘテ老フルル五人ノ英帝國ノ工業力ノ偉大ナルヲ驚歎

シテ得ナイニテアル

「フリユール」

言ヒ忘レタカラ最後ニオチ付加ヘシ。全世界ニ流行シタ「フリユール」(流行風)ハ十月以

来英國艦隊ニ侵入シ北帝中ノ警戒ヲ余儀ナクセシメタ。艦隊ヲ見渡シテ知テ莫

イ旗ヲ奉<sup>テ</sup>居ラス艦ヲサナクイ位「アムス」ノ如キナ名ノ死シ者ヲ

出シタト聞キ又ノ十ノ月<sup>初</sup>艦隊が北海ニ至動シタ中ニ行動ヲ又ニ得<sup>テ</sup>シ

「アムス」艦隊ノ勢力ヲ断シシ域ニ流行シタハ全ツクニシシニシテ「アムス」艦

士官ノ「エムンガ」行モ「ホー」出ラ有スルモニ限ラレ且ツ汽船ニ乗ラテ「アムス」

全が出タ。且ツ今迄大目ニ見テ「アムス」ノ規則通<sup>ル</sup>「アムス」が「アムス」毎日士官室士官三名

以上<sup>ノ</sup>艦隊全地ニ行クコトが出来タナク士官ヲ取ッテ之ガ病氣以上ニ苦痛

標「アムス」

(終)

4-6 水交記事

年月日	曜	碇泊港	出港時間	入港時間	任務	石炭量	記	事
(INDOMITABLE) 7 6 17	月	ROSYTH	4.				11.30 a.m. INDOMITABLE	果船
18	火	BURNT-IRLAND.	"	8.30 a.m. 5.00 p.m.	教練	----	FORTH 内 = 出動	
19	水	ROSYTH	2.	5.00 a.m. 6.00 a.m.	錨地更			
20	木	"	4.					
21	金	"	"			250		
22	土	"	"					
23	日	"	"				船内互換. 分隊互換	
24	月	"	"	8.00 a.m. 4.00 p.m. 6.00 p.m. 7.00 p.m.	教練	-----	FORTH 内 = 出動	
25	火	"	"					
26	水	"	"			300		
27	木	"	"					
28	金	"	"	2.00 a.m.				機雷沈置掩護
29	土							全上 (他) 機雷沈置掩護
30	日	SCAPA.	4			950.		
7. 1	月	"	"	10.30 a.m. 3.30 p.m.	教練	-----	Flow 内 = 出動	

0108

年月日	曜	碇泊港	口-427	出港時間	入港時間	任務	石搭載	出炭量	記	事
7. 2.	火	SCAPA.	4	0.30. p.m.	5.30. p.m.	教練			Flow 内 = 出動	
3.	水	"	"	6.30. a.m.	4.30. p.m.	大口砲 射擊	460.		{ I.B.C.S. 実艦目標的 全装薬射撃 全速力(23節).	
4.	木	"	"							
5.	金	"	2							
6.	土	"	"	7.00. p.m.		大艦隊 演習				
7.	日					"			{ 北海 / 洋心 = 演習実施 假想敵 I.B.C.S. T.B.S.	
8.	月	Rosyth	2 1/2		8.30. a.m.	"	950.			
9.	火	"	4							
10.	水	"	"							
11.	土	"	"							
12.	金	"	"							
13.	土	"	"							
14.	日	"	"							
15.	月	"	"							
16.	火	"	"							

0109

年月日	曜	碓泊港	出港時間	入港時間	任務	石炭搭載量	記	事
7. 17	水	ROSYTH						
18	木	"						
(TIGER) 19	金	"						10.30 a.m. TIGER = 軀身 (TIGER = 昨日出港).
20	土	"						
21	日	"						皇帝陛下奉迎 / 建休
22	月	"						{ 皇帝陛下大艦臨御 Q.E. = 勳章授与式
23	火	"						{ 皇帝陛下 B.C.F. 及 C. 米艦隊御訪問
24	水	"						FORTH 内 = 出動
25	木	"			8.00 a.m. 1.00 p.m. 教練			
26	金	"						
27	土	"						
28	日	"						艦内点検 / 分隊点検
29	月	"						I.B.C.S / 端舩競漕
30	火	"						
31	水	"						

0110



年	月	日	曜	碓泊港	L-42	出港時間	入港時間	任務	石炭搭載量	記	事
8.	1	木	Rosyth		4						
	2	金	"	"	"	10.00 a.m.	5.30 p.m.	教練	400	FORTH 收=出動	
	3	土	"	"	"						
	4	日	"	"	"					艦内点検分隊点検	
	5	月	"	"	"						
	6	火	"	"	"						
	7	水	"	"	"						
	8	木	"	"	"						
	9	金	"	"	"						
	10	土	"	"	"	11.30 a.m.	9.00 p.m.	教練			
	11	日	"	"	2 1/2					艦内点検分隊点検	
	12	月	"	"	"				455		
	13	火	"	"	"	3.30 p.m.		SWEETING.			
	14	水	"	"	"			"		I.B.C.S. I.C.S. I&V.L.S. 及 FURIOUS. 出動.	
	15	木	"	"	"	8.00 p.m.		"	1060.	FISHERBANK, DOGGER BANK 附近 追撃敵. 飛行機 NOTICE: 3 <sup>00</sup> ~5 <sup>00</sup> 多数 中立國 漢船ヲ見ル	

0111

年	月	日	曜	碇泊港	出港時間	入港時間	任務	搭載量	記	事
	8.	16.	金	Rosyth	4					
		17.	土	"	"					
		18.	日	"	"					艦内点検 分隊点検
		19.	月	"	"					
		20.	火	"	"					
		21.	水	"	"					
		22.	木	"	2½	2.45 p.m.	大艦隊 演習			
		23.	金	"			"			II B.S. III B.S. 假想敵 トシテ北海 伴心 大演習
		24.	土	Rosyth	2½	8.30 a.m.	"	1.100.	一時 385 屯ヲ積ニ REPULSE 司令官ヨリ 要メテ	
		25.	日	"	"					艦内点検 分隊点検
		26.	月	"	"					
		27.	火	"	"					
		28.	水	"	"	5.30 a.m. 3.00 p.m.	独艦隊ト 合戦演習			{独艦隊出現 朝7時 MAY ISLANDヨリ返ス
		29.	木	"	2½					
		30.	金	"	1½					{TIGER = 旗ヲ巡 戦隊 / BOXING 競技施行 (Boy 12)

0112

年	月	日	曜	碇泊港	V-42	出港時間	入港時間	任務	搭載量	記	事
	8.	31	土	ROSYTH					1/2		II B.E.S. IV B.S. 出港 SEAPA = 向7.
	9.	1	日	"					2 1/2		艦内互換分隊互換
		2	月	"					4.	360	四時前NOTICE = 舟上陸機 停車場の皆呼び戻す。二時 前NOTICE + 舟上陸機 " 信号" 桶 = 軍艦旗掲げ" 11.12.
		3	火	"					2 1/2		
		4	水	"		6.30 a.m.	11.00 p.m.	教練	教練		FORTH 丸 = 出動
		5	木	"					"		
		6	金	"					1/3		
		7	土	"					4		
		8	日	"					"		艦内互換分隊互換
		9	月	"					"		
		10	火	"					"		
		11	水	"					"		
		12	木	"					"		
		13	金	"		6.15 a.m.	4.00 p.m.	教練	教練		FORTH 丸 = 出動
		14	土	"					2 1/2	360	

0113

年	月	日	曜	碇泊港	出港時間	入港時間	任務	量	記	事
98	8	15	日	ROSYTH	4					艦内点検 分隊点検
		16	月	"	"					
		17	火	"	"					
		18	水	"	"					
		19	木	"	"	2.00 a.m.	大口至砲 射撃 終了			
		20	金	"	"	0.00 p.m.	SWEEPING.	1030	<ul style="list-style-type: none"> <li>BERWICK 沖 = 終了</li> <li>REPULSE 横 = 突</li> <li>施入 (各砲 = 終究)</li> <li>距離 18,000</li> <li>射撃回数 18</li> <li>18</li> <li>22</li> <li>5</li> <li>10</li> </ul>	
		21	土	"	"					
		22	日	"	"					艦内点検 人員調査
		23	月	"	"	11.45 a.m.	大艦隊 演習			假想敵 I.B.C.S. I.Z.B.S.
		24	火	"	"					
		25	水	ROSYTH	2	0.00 p.m.	"	850	<ul style="list-style-type: none"> <li>I.B.C.S. 及 V.B.S. 天</li> <li>ROSYTH 入港 其他 SCAPA.</li> </ul>	
		26	木	"	4					
		27	金	"	"					
		28	土	"	"					
		29	日	"	"					艦内点検 人員調査
0114		30	月	"	2	6.15 p.m.	5.00 p.m.	400	<ul style="list-style-type: none"> <li>独艦隊ト</li> <li>会戦 爲メ</li> <li>独艦隊出現 報 7/11/41</li> <li>MAY ISLAND 3/11/41</li> </ul>	

年	月	日	曜	碇泊港	U-42	出港時間	入港時間	任務	石炭量 搭載量	記	事
10	1	火	Rosyth	2½							戦艦2隊全部Rosyth入港
		2	水	"	"						
		3	木	"	4						TIGER 就役四年目+
		4	金	"	"						
		5	土	"	"						
		6	日	"	"						艦内互換 分隊互換
		7	月	"	"						
		8	火	"	"						午後九時 NORTH LIGHT 7見ル
		9	水	"	"	2.45 a.m.	3.30 p.m.	大口至砲 射撃	710.	{	BERWICK沖 = 放テ IBC.S (TIGER 欠) 射撃実施上知 天候不良 = 付テ取止ム
		10	木	"	2½						
		11	金	BURNTISLAND	2	11.00 a.m.	3.00 p.m.	教練			FORTH 内 = 出動.
		12	土	Rosyth	2	3.45 a.m.	2.00 p.m.	大口至砲 射撃		{	TH 2日 豫定、射撃ヲ 本日実施ス
		13	日	"	4						午後八時急遽出動準備.
		14	月	"	1	2.00 a.m.		独艦隊小 会戦為メ		{	敵艦隊出現、報P 1911+1912 遂ニ会戦 30海ヲ索敵ス
		15	火	"	2½		1.30 a.m.	"	710.		

0115

年月日	曜	碇泊港	出港時間	入港時間	任務	石炭搭載量	註	事
10 16	水	Rosyth	2½					
17	木	"	4					
18	金	"	"					
19	土	"	"	6.00. a.m.	5.00. p.m.	教練	天候不良=付取止ム	
20	日	"	"				艦内点検 分隊点検	
21	月	"	2½	2.30. p.m.		SWEEPING.	BATTLE C. F. 全部出動.	
22	火							
23	水	Rosyth	2	2.30. p.m.	副砲射撃	1.200	{ 帰途北海=於テ I.B.C.S. 射撃実施	
24	木	"		8.00. a.m.	{ 独艦隊ハ 合戦, 爲メ		{ 独艦隊出現, 報リ夜間戦ヲ配置=テ取敢セシモ出合セズ	
25	金	"			{ 機雷沈置 掩護		諾威沿岸=機雷沈置	
26	土	"						
27	日	"	2½	11.30. a.m.	"	1.580		
28	月	"	"					
29	火	"	2½					
30	水	"	"					
0116 31	木	"	"					

年	月	日	曜	候泊港	出港時間	入港時間	任務	搭載	記事
	11	1	金	ROSYTH	2 迄				
		2	土	"	"				
		3	日	"	"				介係と換 艦内と換 東伏見官殿下大艦隊 南未訪
		4	月	"	"				
		5	火	"	"				{ 早朝、累風雨 → 北行校 母艦 CAMPANIA 沈没
		6	水	"	"			400	
		7	木	"	"				
		8	金	"	"	4.30.a.m. 5.00.p.m.	教練		
		9	土	"	"				{ 6.30.p.m. 急遽出帆 1命 {P} 7時向 NOTICE へ
		10	日	"	2 迄				艦内と換 介係と換
		11	月	"	4			448	午前5時 休戦條約調印。(公報)
		12	火	"	"				
		13	水	"	"				
		14	木	"	"				
0117		15	金	"	"				{ KÖNIGSBERG 休戦委員 { 船也 FIRTH OF FORTH 着

年月日	曜	碇泊港	U-47	出港時間	入港時間	任務	石炭 搭載量	記事
11.16	土	Rosyth	4					
17	日	"	"					{ 两个碇泊用燃料トソ 重油ヲ使用10ト(旗信). 艦内交換分隊交換
18	月	"	"				360	14回出陣艦1. 駆逐艦2入港
19	火	"	"					
20	水	"	"					{ 英國皇帝陛下大艦隊 御奉臨.
21	木	"	"	4.15. a.m.	3.00. p.m.	{ 独逸艦隊 受領		
22	金	"	"					
23	土	"	"					
24	日	"	"	11.00. a.m.		{ 独逸出陣 戦艦, 駆逐艦 視		
25	月	SCAPA	"	9.30. a.m.			456	{ 独逸出陣戦艦及駆逐艦 14隻 駆逐艦1部入港
26	火	"	"					{ KAISER 級五隻及駆 出陣艦及駆逐艦入港
27	水	"	"					{ BAYERN 以下戦艦四隻 及駆逐艦1部入港.
28	木	"	"					
29	金	"	"					
30	土	"	"					

0118